



国府台女子学院 小学部だより

市川市菅野3-24-1

Tel 047-322-5644

Fax 047-322-5655

深まる秋 お気に入りの本を見つけよう!

紅葉が山を彩る季節となりました。澄み渡った空気が心地よいです。木枯らし1号が例年よりも早く吹き、冬がすぐそこまで来ているのを感じますが、深まる秋、食欲の秋、スポーツの秋、芸術の秋、...いろいろな秋を楽しみましょう。

さて、昨年まで行っていた朝読書の時間に各学級を訪問しての読み聞かせに換えて、10月中旬、当日告知の昼休みの読み聞かせを試みました。40~50人くらいの児童や先生方が図書室に集まりました。

今回読んだ本は、佐野洋子 作・絵「100万回生きたねこ」です。

この本は、読者の年齢等によって読むたびに感じ方が変化するのではないかと思います。生きることについて深く考えさせられる絵本です。子どもたちにとっては、今は何気なく聞いただけであったり、内容を覚えていなかったりするかもしれません。でもこれから先、いつかふと思い出して手にとって読んだら、愛することや自分と他者の幸せなどに思いを巡らせるのではないかと思います。機会があったら、ご家庭でも読んでみてください。昼休みの読み聞かせは、今後も不定期にやっていく予定です。

パソコンやスマホを見る時間の内のほんの10~20分間、少しでも読書の時間にして、読書の秋を楽しんでみませんか。そして、お気に入りの1冊に出会えるといいですね。

11月行事予定



- | | |
|----------------|--------------------------|
| 1日 休業日 | 18日 振替休業日(11/16分) |
| 3日 祝 文化の日 | 新聞感想文コンクール表彰式 |
| 4日 職員会議 | 19日 2年生、5年生 命の授業 |
| 7日 6年生進学認定テスト | 6年生校外学習 |
| 9日 合唱部全国大会 | 20日 4年生 つぼみスクール |
| 11日 クラブ | 22日 休業日 |
| 12日 授業参観・学級懇談会 | 24日 振替休日(11/23) |
| 5年生スキー学校説明会 | 25日 クラブ |
| 13日 報恩講・午前中授業 | 26日 3年生校外学習 |
| 14日 1年生校外学習 | 27日 5,6年生対象スクールカウンセラー講演会 |
| 15日 入試準備 | 28日 成道会、音楽集会 |
| 16日 第2回入学試験 | 12月2日職員会議 |
| 17日 仏教朝礼 | 3日 5,6年生芸術鑑賞 |



縦割り活動 校外学習(TDL)

2025年11月号 11月5日発行

10月16日(木)全校で東京ディズニーランドに出かけました。縦割りグループの活動をとおして、「協力することの大切さを学ぶ」「お互いを思いやる心を育てる」ことを目的として実施しています。ですから、ただ単に楽しいだけではなく、気持ちのやりとりがスムーズにいかない場面で、我慢や工夫や気持ちの切り替えを学ぶよい機会になると考えています。また、グループで行動するために、自分の果たすべき役割を一人一人が考えて行動することが大切になります。

当日は、入園後から午後の集合時刻まで、事前に立てた活動計画に沿ってグループで行動しました。

「おなかですいたから早めにお昼を食べよう」「できるだけアトラクションを回ろう」などグループで話し合いながら行動し、充実した一日になりました。

感謝の心を育てる

TDL 校外学習のバスの中での出来事です。子どもたちのチケットを担当の教員が一人一人に手渡ししていたときの事です。黙って受け取る児童が多い中、一人の児童が「ありがとうございます」と自然に言って受け取っていました。きっと普段から「ありがとう」と伝える習慣ができているのだらうと思われました。

感謝の心は人とのつながりを深める大切な力です。「ありがとう」と言われると温かい気持ちになり、誰かに親切にしたいと思うものです。

感謝の心を育てるには日々の積み重ねが大切です。ご家庭でも意識して優しい行動やがんばりを見つけて具体的に言葉で伝えてあげてください。優しい感謝の気持ちが広がりますように。

今月の目標

「進んで仕事をし、後始末もしっかりしましょう。」

<https://www.konodai-gs.ac.jp/>

変化する世界を生きる智慧

2025年10月28日の朝日新聞一面を飾った「首相「日米、新黄金時代を」という見出しや、テレビニュースでクローズアップされたトランプ大統領と高市首相の「親密」「蜜月」と表現される関係は、両政府トップの良好なスタートを象徴していました。しかし、仏教の観点から見ると、この幸福感に満ちた「親密」「蜜月」こそが、しばしば執着(煩惱)の対象となりえます。その幸福な状態が強ければ強いほど、「この状態が永遠に続いてほしい」という渴愛(かつあい)や強い執着を生み出すからです。仏教では、「苦しみ」の根本原因はこの執着にあると説いています。幸福な状態に強くしがみつくと、その状態が失われた時の「苦しみ」を大きくする種をまいていることとなります。ニュースで語られる「蜜月」も、一時的な状態であり、必ず変化し、やがては終わるという「諸行無常」(この世のあらゆるものは絶えず変化し続け、永遠不滅なものはないという教え)の真理を示唆しています。政治の世界における「親密」な関係性も、状況や利害の変化によってすぐに変化することを自覚しておく必要があります。

この「親密」や「蜜月」に対し、私たちはどのように向き合えば良いのでしょうか。仏教的に捉えるのなら、「享受しつつも囚われず、変化を受け入れる」という生き方ではないでしょうか。この生き方の第一人者として、室町時代の僧侶、一休宗純禅師を私は挙げたいと思います。権力や常識に囚われない自由な生き方を貫いた一休禅師は、その詩歌に「門松は 冥土の旅の 一里塚 めでたくもあり めでたくもなし」を残しました。その歌意は、世間が「めでたい」と浮かれる正月の門松も、実際には「死」へ一歩近づく標識であり、決してめでたいことばかりではないという無常の真実を突きつけています。一休禅師は、どんなに幸せな「親密」「蜜月」も、どんなに厳しい「孤独」「苦難」も、一時的な現象であり「大したことはない、大丈夫、なんとかなる」と捉えます。この「大したことはない、大丈夫」(全ての現象は移り変わり、永遠のものはない)からこそ、執着して苦しむのはやめようという自由な境地こそが、幸福に溺れることも、失われたときに苦しむこともない、真の冷静さを示しています。私たちが他者に求める「親密」「蜜月」な関係性も、一休禅師が示唆したように「めでたくもあり、めでたくもなし」という無常の真実の中にあります。目の前の幸福な時間を享受しつつも、「この状態は必ず変化する」という冷静な真理を心の片隅に留めておくことこそが、関係が失われた時に大きな苦しみを回避する智慧となります。政治の世界における「新黄金時代」であろうと、個人的な「親密」な関係であろうとも、その甘さに溺れたり、浮かれることなく、「囚われず、変化を受け入れる」という姿勢を保ち、常に自由な心で未来に向き合っていくことが大切です。

市内陸上大会

10月24日(金)、市川市内小学校陸上大会が国府台スポーツセンターで行われました。100m走、走り高跳び、走り幅跳びの3種目で市内40校の小学校の高学年の選手が競います。本校からも5,6年生の選手が各種目に出場しました。その内1名の選手が、100m走5年生女子の部で2位に入賞する快挙を成し遂げました。短期間の練習でしたが素晴らしい結果を残すことができました。また、陸上部員間でお互いを励ます言葉を掛け合うなどの様子や、当日の応援態度も大変立派でした。みんなの頑張りに大きな拍手を贈ります。